

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	外科学講座(佐倉):General surgeonを目指して
別タイトル	Department of Surgery (Sakura): Becoming a general surgeon
作成者(著者)	加藤, 良二
公開者	東邦大学医学会
発行日	2012.09
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 59(5). p.270 271.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.59.270
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD00712789

General surgeon を目指して

外科学講座 (佐倉)

教授：加藤良二
岡住慎一
准教授：朴 英進
長島 誠
講師：徳弘圭一
大城 充

教室紹介

教室員は上記の他、助教4名(益原大志、大城崇司、田中 宏、吉田 豊)、レジデント4名(高木隆一、北原知晃、佐藤礼美、門屋健吾)、大学院生1名(森山彩子)の15名に加えて、客員講師1名(木下敬弘)とともに16名で診療、教育、研究を行っている。

診療内容・特色

一般・消化器、呼吸器・甲状腺、乳腺、心臓血管外科が一体となった大外科制をとっている。各グループ・臓器ごとに午前中は初診と再診、午後は一部予約制の特殊外来を行っている。心臓血管外科は循環器センター外来の一部として行われている。入院外来のあらゆる緊急手術に対応し、常に外科医の信条である“毎日がオンコール”体制を維持している。

1. 消化器外科

食道、胃、大腸、肝胆膵とすべての消化器良悪性疾患に対応している。また2010年からは肥満症に対する減量手術も導入している。低侵襲性のみならず、完全切除・機能温存の面からも、適応のある症例については積極的に腹腔鏡手術を行っている。現在、虫垂炎・胆石(胆嚢炎)症例については全例、イレウス・炎症性腸疾患でも高度の腸管拡張、癒着のない症例では腹腔鏡手術を行っている。また



佐倉外科医局員(実習生と)

胃・大腸悪性疾患についても約7割は腹腔鏡手術である。

2. 呼吸器・甲状腺外科

対象は肺癌のほかに、転移性肺腫瘍、自然気胸、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、胸膜中皮腫、膿胸、炎症性肺炎患、胸部外傷、甲状腺良悪性腫瘍等がある。開胸手術のみならず、小開胸併用もしくは単独での胸腔鏡手術も積極的に行っている。内科、病理検査部との合同チームで診断から治療方針までを協議し、最良の治療法を提供できるように努めている。

3. 心臓血管外科

診療内容は、虚血性心疾患に対する冠動脈バイパス術、弁膜疾患に対する人工弁置換術、弁形成術、大動脈疾患に対する人工血管置換術、バイパス術、末梢血管疾患に対する血管内治療、血行再建術、下肢静脈瘤に対する硬化療法、ストリッピング術、不整脈に対するペースメーカー移植術などである。腹部大動脈瘤においては、解剖学的に可能であればより低侵襲であるステントグラフト内挿術を積極的に行っている。術後は、医師、看護師、理学療法士のチームアプローチによる心臓リハビリテーションを行い、早期離床、早期心肺機能回復、そして早期退院を目指している。

4. 乳腺外科

局所再発を防ぎ安全な乳房温存手術を確立するために、マルチディテクタヘリカルCT(multi detector-computed tomography: MD-CT)を駆使した乳癌の広がり診断を積極的に施行し乳房温存手術の可否を決定している。進行乳癌症例においてはまず術前化学療法を行うことで腫瘍の縮小化やダウンステージを目指し、乳房温存手術ができるよう努力している。またエビデンスのある化学療法を即時導入し、最新の術後補助療法を積極的に行っている。

5. 2011年度手術症例数

2011年度手術症例は、一般・消化器外科687例(330)、呼吸器・甲状腺外科113例(89)、心臓血管外科128例、乳腺外科88例であった。なお括弧内の数値は併用・補助下を含む胸腔・腹腔鏡下手術症例数である。

教 育

卒前教育では、医学部5年生の外科系臨床実習が行われ、6年生の臨床講義および選択的臨床実習は4~5月に実施している。卒後教育としては前期研修医全員に対する縫合結紮トレーニングと屋根瓦方式による2カ月の外科研修に加え、救急外来・緊急手術への参加を通じて基礎的外科手術手技の実践が行われている。院外教育として、千葉大学や福島県・群馬県・栃木県・埼玉県などの病院からの招聘による手術指導に加え、各種学会からの特別講演・教育講演への招聘を通じて術後教育の全国展開を実施している。

研 究

消化器外科では、CT・magnetic resonance imaging (MRI) を駆使しての術前シミュレーションによる評価法の開発と同法を用いた内視鏡的手術の新たな工夫と実践、また周術期および術前・術後の免疫変動に関する基礎的・臨床的研究さらに癌と炎症に関する臨床・基礎的研究を行っている。呼吸器外科では、教室独自の鏡視下手術法の開発、遺伝子学的解析を導入した化学療法の研究が行われ、乳腺外科ではMR-mammographyを用いた乳癌進展範囲診断やthree dimensional (3D)-CTを駆使した術前シミュ

レーションによる評価の研究を、また心臓血管外科では常温対外循環や安定した長時間体外循環の確率、症例の状態によって手術に替わるステント治療に関する研究が行われている。2012年度からは千葉大学フロンティアメディカル工学研究開発センターと協力し、新しい医療機器およびシステム等の開発を推進している。

最後に

一般・消化器から呼吸器、乳腺さらには心臓血管外科まで外科専門医に必要な症例を1つの科でこなせる外科は全国でもまれである。すべての分野で手術を始めとする診療技術は着実に伸びていると感じている。また診療・教育に加えて、遺伝子分析、画像技術による術前シミュレーションなどさまざまな先進的研究に取り組み、更なる発展を目指したい。臓器専門別にエキスパートを育成することも時代のニーズであるが、ただ1つの臓器しか扱えない専門医という名の外科医ではなくあらゆる症例に対処できる医師を育て、すべての分野・臓器において高いレベルの医療を提供することが使命であると考えている。

(教授：加藤良二)